



100歳まで長生きする可能性は意外と身近に

長寿化により人生100年時代と謳われる現代では、心身ともに健やかに暮らす健康寿命とともに金銭面の心配をせずに生活するための「資産寿命」をいかに伸ばすかが重要になります。

今回は「老後資産に1億円！」は本当か、について簡単な検証をしました。今回は、100歳まで生きる可能性についてみていきます。

人生100年は本当か

人生100年時代では、平均寿命の延伸に伴い高齢期が長期化することを考慮して、人生設計や老後の資金計画を立てることが求められるようです。とはいうものの、100歳まで長生きすることは、まだまだ珍しいケースにも思えます。

図表1は、厚生労働省が今年7月に公表した平成29年簡易生命表による60歳以上の主な年齢の平均余命（期待値）です。これによると、60歳男性の平均余命は23.72年、女性は28.97年となっています。年齢に置き換えると男性は83.72歳、女性は88.97歳ということです。

いずれも100歳にはほど遠い年齢といえます。では、60歳の時点で平均余命を基に、老後の生活設計をした場合、どうなるのかみていきます。

平均余命は長生きするほど延伸

図表1で60歳男性の平均余命が23.72年とあることから「60歳の男性は、平均してあと23.72年、83.72歳まで生きられるだろう」ということがわかりました。80歳の男性の平均余命はというと、単純に23.72-20年=3.72年とはならず、8.95年との期待値が示され、年齢にすると88.95歳となります。79歳までに亡くなった方が計算に含まれず80歳で生存している方の人数と死亡率等を基に計算されるため、平均余命は伸びます。

60歳時の平均余命で資金計画を立てて大丈夫か

「平均余命」は、1年間の死亡状況が今後変化しないとしたときに、各年齢において死亡する確率を基に、その後存命すると予想される年数を平均したものです。平均に至らない方もいれば、超える方もいることとなります。

図表1 60歳以上の主な年齢別の平均余命

	男性		女性	
	平均余命 (年)	年齢 (歳)	平均余命 (年)	年齢 (歳)
60歳	23.72	83.72	28.97	88.97
65歳	19.57	84.57	24.43	89.43
70歳	15.73	85.73	20.03	90.03
75歳	12.18	87.18	15.79	90.79
80歳	8.95	88.95	11.84	91.84
85歳	6.26	91.26	8.39	93.39
90歳	4.25	94.25	5.61	95.61
95歳	2.81	97.81	3.59	98.59
100歳	1.8	101.8	2.37	102.37

(出所) 厚生労働省「平成29年簡易生命表」を基に岡三アセットマネジメント作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



では、60歳時の平均余命となる年齢で、どのくらいの方が存命となる見通しなのか見てみましょう。図表2は80歳以上の各年齢における生存確率を示しています。60歳時の平均余命である84歳男性と89歳女性を見てみると、84歳男性の生存確率は50.3%、89歳女性は54.7%となっています。

つまり、60歳時の平均余命を基に高齢期を考えていた場合には半数以上の方が想定外に長生きするということになるようです。

やはり100歳が視野に

2人に1人の方が想定以上に高齢期が長期化するなかで、60歳時の平均余命を基にした生活設計では安心できるものとはいえません。

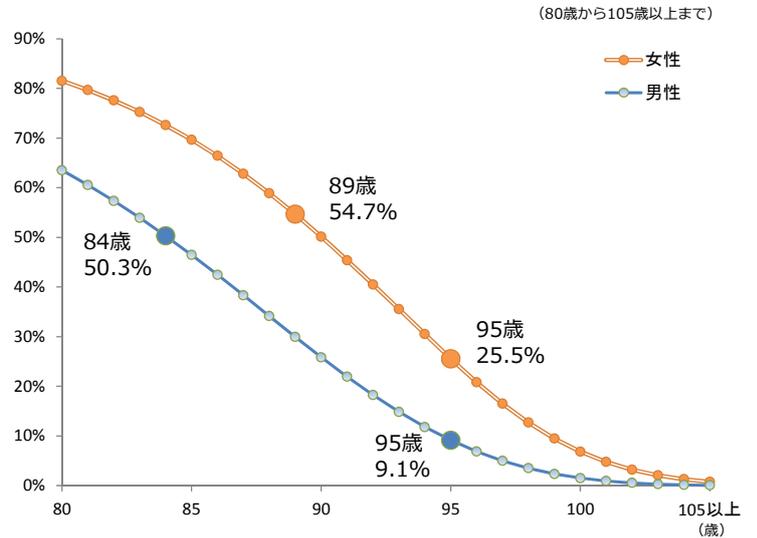
では、少し糊代を設けて95歳まで生きることを前提とした場合はどうでしょうか。

図表2によると、95歳での生存確率は男性では9.1%ですが、女性では25.5%が存命となることが示されています。ということは、95歳までの計画でも女性の4人に1人にとっては十分ではないという可能性がありそうです。

さらに、男性は約66人に1人（1.52%）、女性は約15人に1人（6.84%）が100歳まで人生が続いていくことが示されています。

以上のことから、安心できる「資金計画」としては、100歳まで続く人生を見据えることが望ましいのではないのでしょうか。

図表2 80歳以上の各年齢における生存確率



(出所) 厚生労働省「平成29年簡易生命表」のデータを基に岡三アセットマネジメント作成

以上 (作成：投資情報部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。